

「令和5年度 第2回居合道四・五段審査会講評」

教士七段 田苗俊和

春の日差しが感じられた3月16日午後に東京武道館で四・五段審査が行われました。当日の指定技は古流、五本目「袈裟切り」、六本目「諸手突き」、十本目「四方切り」、十一本目「総切り」で、合格率は以下の通りでした。

四段；44.9%（受審者49名中22名合格）

五段；24.4%（受審者41名中10名合格）

審査員として気になった点について自戒の念を込めて述べさせていただきます。

礼法については心を込めた丁寧な所作を心がけてください。

正座の姿勢についても教本を今一度読み返していただけたらと思います。

古流は各流派の教えによりますが、段位に則した気・剣・体の一致が必要なのは共通です。気負いのためか力み過ぎて体のブレが見られますので注意してください。

五本目は刀を抜き出すときに鞘をかえしながらであるところが、刀に手をかけた後すぐにかえして抜いている方が多くみられました。この受審段位では正確に出来るように稽古してください。また逆袈裟の角度が浅く、かえす刀の左肩口への袈裟切りも肩口でなく脇に入り刃筋も乱れ切れていませんでした。

六本目は右斜め顔面への抜き打ちが顔面を切るのではなく単に叩いています。

そして上体を開いた時の鞘引きが弱く、その後の強い突きにつながっていません。

足さばきが小さく前後の対敵に正対できていない方も見られましたので注意してください。

十本目は間のとり方が難しい技かと思います。単に4方向へ決められた所作で満足していないでしょうか。目付と体さばきの拍子を研究し急がずとも技の連続性を表現してもらいたいと思います。

こぶしを柄の平で打つ間合いが近いと、その後の抜く動作に無理があり仮想敵への意識に疑問が残ります。また、上段の構えでは気魄の感じられる残心として示すことが必要です。

十一本目は刃筋や切る部位に乱れが見られます。そして急ぐあまり切り下した刀が止まらず跳ねるように振りかぶっている方や腰腹部を水平に切るところでは早く刀を振りかぶろうとして刃筋正しく水平に切れていない方が散見されました。

この段位に臨まれる方は指導者から注意を受けるだけでなく自問自答した稽古も大切かと思ひます。審査では緊張の影響もあるかと思ひますがカタチをこなしているだけに見られたのは残念です。この段位に求められる「目付」や「気魄」が顔を向けるだけや刃勢だけになっていないか稽古を通して確認してみてください。

残念ながら不合格であった方は今回の結果を糧にして再挑戦して頂ければと思ひます。日頃できることが審査で発揮出来ない方も多いかと思ひます。この段位では心の落ち着きも必要です。腹式呼吸や下丹田を意識した稽古を重ね克服されることを願っています。合格された方はこれからの取り組み姿勢が合格段位としての真価が問われると心して稽古に励んでいただければ幸いです。

以上